

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600227		
法人名	東洋測量設計株式会社		
事業所名	グループホームふれあいの里たちばな		
所在地	佐賀県武雄市橘町大字片白425-1		
自己評価作成日	令和3年7月16日	評価結果市町村受理日	令和3年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い庭の敷地は開放感があり、ゆったりとした気持ちで桜やヤシの木、クレーザーなど景色がホームの広い窓から見渡せる事ができます。施設も新しくなり、明るく広いリビングで職員と入居者様と和気藹々で笑顔のたえない楽しい雰囲気作り而努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

深緑の山々と田畑が見渡せるホームは、桜並木や船が飾られた広い敷地があり、水害時には地域の人たちの車の避難場所にもなっている。ホームでは寝たきりにならない取り組みが行われている。職員は、和気あいの雰囲気を大切に、入居者も和やかな雰囲気の中で、思い思いにくつろいでいる。ホームの理念の下、職員と入居者のお互いの心が自然と和気あいの気持ちにさせ、楽しい気分になったホームを作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念の共有と実践の為、毎朝申し送り後、唱和し介護に入って頂いている。理念を念頭に置いて介護を行って頂きたい。	会議時に各職員が理念を暗唱する機会があり、自然に言えるくらいになっている。また、何か問題が起きた時には理念に立ち返り、職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議、老人会の訪問、地域小学校の訪問交流等、地域の方々との交流を心がけているが、昨年コロナが流行し、交流が出来なくなっています。	コロナ禍前は、老人会や小学生の訪問があったが、現在は、近所の方との挨拶や回覧板、季節の野菜をもらったりしている。コロナ禍が落ち着けば、近隣のゴミ拾いやホームでのお祭り、太鼓演奏なども検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向け地域の理解、支援の方法等勉強会を開催したいとの思いはありますが、実践していません。今後に向けた課題です。又コロナもあり実践できずにいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	大いに生かし、独断的にならずに問題提起し参考にさせて頂いていたが、コロナの為にアドバイス等頂く機会が少なくなり、不安もあるが今までどうりより良いサービスを行えるよう努力していきたいと思えます。	家族や民生委員、関係団体と書面でのやり取りを行っている。また、面会時や電話等で、意見の聞き取りも行っている。より詳しくホームの様子が分かるよう、写真付きの広報も検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市も地域資源である為、大いに活用させて頂いている。意見を頂いたり、報告をしたりして協力関係を築いていけるよう取り組んでいます。	介護保険事務所には、制度に関することを、適宜指導を受けている。また、地域包括支援センターとは、入居者の支援方針や家族関係の調整など、情報共有を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束の勉強会を定期的に行い、拘束を行わないケアを実践してます。言葉による拘束にも留意し、疑問形の言葉での声かけを行い命令口調にならない様に注意をしています。	毎月身体拘束の勉強会を行い、言葉による行動抑制をしない取り組みも行っている。また、職員は声かけを行い、入居者に合わせた方言にも配慮している。また、強い口調になる職員がいれば、お互いに注意し合えるような関係性を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束、虐待共に定期的に勉強会を行い職員にも浸透している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている入居者がおられ、その点では理解できているが、他の事は繰り返しの知識の吸収がまだまだ不十分だと考えています。じっくり取り組んでいきたいと考えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、時間をかけ疑問点、不安点が無い様説明を行ない、また改定等発生した場合は、文書にて説明、同意を得る様に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議や面会時、又は電話にて意見や要望等をお聞きしたり、ご意見箱を設置したり、他に相談する場合の窓口に電話番号を掲示し運営に反映させている。	面会時や電話などで、家族に入居者の様子を報告し、意見をもらうようにしている。また、家族にも悩みや問題があった際は、地域包括支援センターとも協力し、解決に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、全体会議時、又申し送りノートを活用し、意見・提案を行っている。管理者会議を経て代表者へ伝達し、検討を行い、反映して頂いている。	全体会議には代表者も参加し、直接職員の意見を聞く機会がある。厨房や脱衣場のエアコン設置など、職員の要望が反映されている。また、管理者は、勤務調整にも柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当ホームは小規模施設である。世間一般に知れ渡っている様に、他職種より給与水準も低く、一様には出来ない環境である為、その中で出来る事から整備されている状況である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等、無料であったり、有料であったりするが、経営が厳しい中、有料研修の参加をさせて頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者にはその機会もありますが、広く職員とまでは実現できていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人等入居前後、聞き取り調査や、医者の情報提供を活用し、ご本人が安心、安全、安楽に暮らしていけるよう、職員間の支援の統一徹底を図り、心安らぐ生活ができるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に築く関係性は重要である。相互に信頼関係を築き、不安のないような関係作りを務めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記15、16番をも踏まえ、現段階において、ご本人にとって今何が一番必要なのかを判断し、サービス提供を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事を一緒に行い、共に過ごし、少しでも家庭的な雰囲気近づける様務めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まずは、利用者様の代弁者であること。ご家族様が面会に来られて、顔を見られても思い出せない、名前が出てこない、面会に来ても悲しいだけ。そういうところからお手伝いをし、会いに来られたことを別の形で表し、理解されていることから説明を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までも、これからも通いなれた病院、美容院、ご友人とのお手紙のやり取り等、途切れることの無い様支援に努めています。	家族や友人との手紙のやり取りを行っている。また、ドライブで、馴染みの風景を眺める機会を設けている。ワクチン接種を終えた入居者は、行きつけの美容院に行く予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	友達同士のような関係の方もいらっしゃれば、関係作りが苦手な方もいらっしゃいます。孤立されないように、スムーズに声掛けができるようお手伝いをさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される方には、「困られていることがありましたら、ご遠慮なくご相談ください」とお伝えし、また「遊びに来て頂きたいと思います」ともお伝えし、相談や支援の用意がある事で、安心して頂けるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人に、自由な思い通りの生活をして頂いています。今後ご本人、ご家族様の意向に重きを置き、安心して過ごして頂ける様取り組んでいきます。	日頃より食べたい物を聞いて、それを食事に反映している。また、思い出ノートを使って入居者のしたい事、できる事を実践している。意思表示が難しい入居者には、表情や仕草から意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様に聞き取りを行い、個々のサービスや支援に繋がっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースに合わせた一日の流れ、バイタルチェックにより体調の変化、顔色、メンタル面の観察、食欲、質の良い睡眠等、夜勤から日勤に申し送りを行い、安心、安楽に過ごして頂いています。又、有する力を損なわない介護に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様に希望等をお聞きし、担当者会議で話し合い、その方に添ったプランを作成しています。	計画作成者と担当職員を中心に、入居者や家族の意向確認を行い介護計画に反映している。しかし、計画作成者の不在期間があり、モニタリングが出来ないことがあった。	計画作成者の継続的な配置と介護計画の見直しや計画の作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々について、申し送りノートを利用し、職員間で話し合い、情報の交換を行い、その情報をプランに上げ実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応し、その方々の希望や、心身の状況に添ったサービスを、提供して頂けるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会、小学校の慰問等を実施していましたが、コロナにより現在活動をお休みしています。今後も個人を含め、ボランティア等の活用にて彩のある暮らしの支援の向上を目指していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を基本としています。	月1回の訪問診療や家族対応でのかかりつけ医の受診など、適宜、主治医や家族と情報共有を行っている。また、主治医からの紹介で総合病院に入院したケースもあり、スムーズな連携と迅速な対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化をきたした方は、看護師に報告をし、状態に応じて医療機関に連絡等を行い、適切な医療が受けられる様支援します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時、入院時は医療機関に状態の説明をし、情報等の交換を行い、安心して頂ける様支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約を交わす際、終末期に関する事も説明し、ご家族の大まかな意向を確認。ご家族やご本人の意向のまま支援します。	看取りも行うが、その時々の方々の意向も尊重し病院搬送する事もある。また、重度化や急変時には、事前に主治医と相談し、総合病院とも連携が取れるようにしている。夜間帯では、管理者や緊急時の職員の協力体制が出来ており、夜勤者の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議時に話し合いを行っています。殆どの職員が応急手当ができるようになりましたが、定期的に訓練が、まだ十分にできていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って年3回程度入居者様を交えて訓練を行っています。消防署からの指導も受けています。	火災避難訓練は、日頃からホームで行い、消防署が参加した訓練も行っている。また、災害マニュアルや連絡体制、備蓄品の確保など、防災意識は高いが、夜間想定避難訓練と地域住民との協力体制はまだである。	この地域は水害の被害もあり、夜間想定避難訓練と地域住民との協力体制づくりに向けた取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーの保持、人格を尊重し、接しています。知らず知らずのうちに入居者様を傷つけていないか、職員会議時に話し合いを行い対応を行っています。	命令口調にならないよう職員間で確認し、入居者に適した方言を使っている。また、特に排泄時にはプライバシーに配慮している。個人ファイルは、名前も見えないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服装選びは、ご自分で行って頂いていますが、思いや希望は不定せず、時間のかかることは計画を立て、希望に添える様に行っています。又、管理者としては、疑問形で声掛けするように指導しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れになりがちですが、個々のペースを大切に、ご本人の希望に沿いながら支援できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな服装を選ぶ手伝いや、髪飾りをつけたり、マニキュアをしたり、自由に好きなおしゃれを楽しんでいただける様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは難しくなってきましたが、できる方には、下膳や、コップを運んでいただいたり、料理の味見をしていただいています。献立は、利用者様に聞き取りを行い、できるだけ希望に添えるように努めています。	入居者の食べたい物に合わせて食事を作り、その都度入居者に味見をしてもらっている。また、入居者の状態に合わせた食事形態にし、誤嚥にも配慮している。時折、おやつ会や庭先での食事会を行う時もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は、個人記録に記載し、水分量は毎日時間を決めて摂取して頂き、その他にも職員の方から声掛けし進めています。食事形態は個々の状態にあった食事形態にて提供しています。又、その日の状態に合わせた食事介助、食べ方等を支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助を行っています。できるだけ自身で磨いて頂き、できないところを支援しています。磨き残しがないように確認を行い、義歯や、歯に不具合が生じた場合は歯科に連絡し往診をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失敗を少なくする工夫を行っています。夜間オムツや、Pトイレ利用者様も、日中はトイレでの排泄を支援しています。	個々の排泄状況に応じ、トイレが頻回の方にも適宜声かけを行っている。また、重度の方でもトイレに誘導し、排泄の自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容に留意し、運動を行い、それでも排便がない場合は緩下剤を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に入浴を好まれる方は、自由に入って頂き、ご自分のペースでゆっくり入られています。拒否者もいらっしゃいますが、色々な誘い方を工夫し不潔にならない様支援しています。	入浴は週に2~3回、入居者の意向に合わせて入浴やシャワー浴も行っている。また、入浴を好まれない入居者には、声かけの工夫や時間を置いて対応し、気持ちに寄り添った入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午眠をされる方、されない方、一人ひとり自由にされています。日光浴や機能訓練等を行い、夜間の安眠に繋がられる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の、薬の内容等記載された調剤内容をファイリングし、確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手づくりおやつ会に参加できることが難しくなって来られていますが、その方々の意欲、力等にあった家事を、強制ではなく、お声掛けに気持ちよく応じて下さる方々と職員ともに行います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、買い物、会食等ご本人がしたい事、行きたい所に個別に支援をしていましたが、コロナで外出が出来ていません。敷地内の散歩を行い、気分転換をして頂いています。これからも個別に行きたいと希望される所に行けるよう、支援を行って行きたいと思っています。	コロナ禍前は、スーパーへの買い物や四季折々の花を見に行っていたが、現在は、敷地内を散歩し、桜や田園風景を眺めている。コロナ禍が落ち着けば、家族との交流や外出支援を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様よりお小遣いをお預かりし、欲しいものがあられる場合、ジュース等であれば敷地内にある自動販売機まで行き、自分で買って頂くお手伝いをしています。今後は、買い物に行かれない方のために、ショッピングを計画しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時は、ホーム内の電話を使用しお友達や、ご家族様に電話をして頂いたり、お手紙を書かれたり、その時々で最善と考えられる支援をおこなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生花や、行事の飾り、入居者様と相談をしながら工夫しています。お風呂場には暖、冷房を完備し、換気を行い、気持ち良く入浴して頂ける様努めています。	広い共有空間は、窓も多く明るい。季節の花々や季節行事の飾り物も置かれ、天井には空色の壁紙が貼られている。職員は感染対策にも気を配り、消毒や換気も徹底している。また、居心地よい雰囲気壊さないよう、声や足音、匂いにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士がトラブルにならない様に、座席を配置し、仲の良い方同士だったり、ソファだったり、不快感の減少に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、ご家族、ご本人にお任せし、職員は出来るだけ口出しはしていません。荷物運びのお手伝いをさせて頂いています。又、使い慣れ親しんだ物をご持参くださいと、お願いしています。	広い窓からは陽光が差し込み、居室全体を明るくしている。入居者は、思い入れのある飾り物や写真を置いて、自宅と同じような居心地よい空間を作っている。また、職員は、採光や室温、除菌等にも気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時に場所の説明を行い、夜間は、トイレに行かれる時廊下に出られると、センサーが反応し電気が点灯します。安全に歩行が出来る様になっています。		